

令和4年4月25日

会員の皆様へ

公益社団法人兵庫県物産協会

神戸マツダ ファンフェスタ 2022「兵庫五国PRイベント」のご案内

この度、兵庫県内の地場産業や特産品の需要開拓・拡大を目的に、神戸国際会議場・市民広場において開催する、神戸マツダの顧客感謝イベント「神戸マツダ ファンフェスタ 2022 兵庫五国PRイベント」に出店する事業者を募集します。

出店を希望する方は、5月9日（月）までに別紙出店申込書にてお申込みください。

- 【開催日時】 6月3日（金）～6月5日（日）10：00～17：00（予定）
- 【開催場所】 神戸国際会議場、市民広場（神戸市中央区港島中町6-9-1）
※ 来場者数 約5,000人、3日は社員・家族向けに開催
- 【募集数】 兵庫五国PRイベント会場 神戸国際会議場5階 ラウンジ
10店舗程度 兵庫の特産品、加工食品、飲料、スイーツ、工芸・雑貨など
商品の即売のみ ※調理販売不可 火気・水・電気は使用できません。



「兵庫五国PRブース」出店場所：神戸国際会議場 5階ラウンジ

- 【出展料】 無料（1小間 売場：会議机 180×60×1台程度のスペースを予定）
※期間中の売上は全額お持ち帰りください。
※その他、駐車場代など出展に必要な費用は各自ご負担ください。
- 【出店申込】 別紙出店申込書にてお申込みください。
※申込者多数の場合は、関係機関と協議のうえ出店者を決定します。

- 【問い合わせ先】（公社）兵庫県物産協会 事務局 西川
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県庁1号館7階
TEL：078-361-8751 FAX：078-382-1206
E-mail：mail@hyogo-bussan.or.jp



送付先：(公社) 兵庫県物産協会 事務局 西川
 FAX：078-382-1206
 E-mail：mail@hyogo-bussan.or.jp
 提出期限：5月9日（月）までにお送りください。

「神戸マツダ ファンフェスタ 2022」出展申込書

上記への出展を希望します。

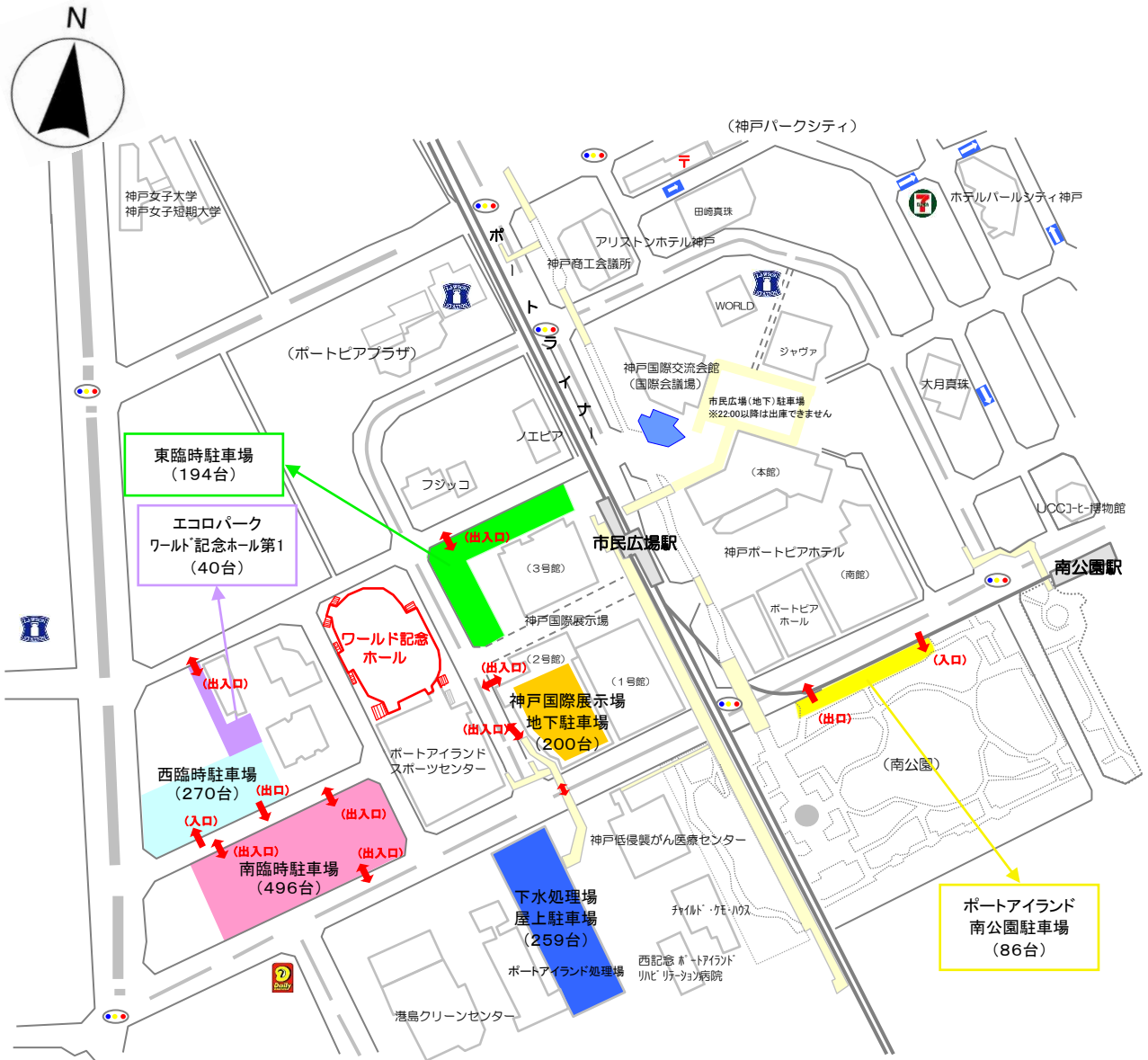
提出日 月 日

出展者名		代表者名	
所在地	〒		
TEL		FAX	
メール			
ふりがな 担当者名		担当連絡先 携帯電話	
出展内容	小間	机	台、椅子 脚
	販売商品 _____ _____ 販売方法		

※申込者多数の場合は、関係機関と協議のうえ出店者を決定します。

ワールド記念ホール -WORLD HALL- (神戸ポートアイランドホール)

周辺駐車場案内・営業内容・料金表



	① 東臨時駐車場	② 西臨時駐車場	③ 南臨時駐車場	④ 下水処理場屋上駐車場	⑤ 国際展示場(地下)駐車場	⑥ P.I 南公園	⑦ エコパークワールド記念ホール前第1
営業時間	7:00~22:00	7:00~22:00	7:30~22:00	24時間	7:00~22:00	24時間	24時間
駐車料金	1日1回: ¥700	1日1回: ¥700	1日: ¥700(普通車) 1日: ¥2,000(大型車)	1時間: ¥100 1日: ¥700	1日: ¥750 ※備考参照	1時間: ¥150	入庫から24時間 駐車1回につき: ¥700
連絡先	株式会社OMこうべ 078-304-0133(平日9:00~17:30 12/29~1/6は休み)				神戸国際展示場 078-303-7516		(緊急連絡先) 050-3803-6687
利用区分	一般駐車場	一般駐車場	イベント用: 予約利用のみ (大型可)	一般駐車場	一般駐車場	一般駐車場	一般駐車場
備考	営業時間外¥1,000追加 車椅子用区画3台あり 全長5m 全幅2m 全高2m 以下の普通車 専用面積貸もあり 高さ制限2.3m	営業時間外¥1,000追加 車椅子用区画6台あり 全長5m 全幅2m 全高2m 以下の普通車 専用面積貸もあり 高さ制限2.3m	営業時間外¥1,000追加 入庫は19:00まで 車椅子用区画8台あり 全長5m 全幅2m 全高2m を超える普通車	7:00~22:00以内に入庫かつ 出庫する場合⇒最大¥700 全長5m 全幅2m 全高2m 以下の普通車 高さ制限2.3m	2時間まで ¥300 3時間まで ¥450 4時間まで ¥600 4時間以上 ¥750 1泊駐車 ¥1,000 (1泊: 22:00~翌7:00) 高さ制限2.0m	全長6m 全幅2m 全高2.4mを 超える車両は駐車不可	連続駐車48時間以内 24Hごとに料金繰返し加算 最低地上高25cm超及びロゴ 板に接触する車両は駐車不可 全長5m 全幅1.9m 全高2.1m 重量2.5t以下 車底15cm以上

※イベントの終了時間が駐車場の営業時間を越える場合がございますので、駐車場入庫の際にご確認下さい。

平成28年3月1日現在

神戸マツダ ファンフェスタ2019 in 県立丹波の森公苑

神戸マツダの顧客感謝イベント「ファンフェスタ2019」がこのほど、丹波市にある「県立丹波の森公苑」で開催された。子どもの遊び場や飲食ブースなども充実し、家族で楽しめるイベント。今年が8回目で、初めて阪神・淡路エリアを離れ、地域色豊かな内容となった。発売されたばかりの「MAZDA (マツダ) 3」の開発者によるトークショー、ライブエンタテインメントもあり、カーファンや地元住民らが一緒に楽しいひとときを過ごした。

地元料理やスイーツ、工芸体験… 芝生広場に50ブース 盛況

「神戸マツダファンフェスタ2019」の会場となった丹波の森公苑は、里山を囲んだ360度の敷地を誇る、県の広域拠点施設だ。700人収容のホール、工芸や音楽室などを備えた生涯学習センター、グラウンド、テニスコートなどがあり、地域住民らの活動や憩いの場となっている。今回のフェスタでは、芝生広場に地元の料理やスイーツの販売、工芸体験などの50



地元の名産品をPRするブース

ブースが並んだ。中でも丹波の特産「うす」が人気で、県内各地から集まった家族連れらは目を輝かす様子。栗ようかんなどの地元グルメや木工体験などを楽しんでいた。また、来年のNHK大河ドラマで丹波ゆかりの戦国武将、明智光秀が取り上げられることから、関連のパンフレットや和菓子なども関心を集めた。会場を訪れた丹波市観光協会の柳川三三会長は「丹波市

丹波の森公苑 住民ら憩いの場



観戦体験ができる協賛企業ブース

は豊かな自然、素晴らしい夕日、歴史のある寺社など、魅力がいっぱいあるところ。丹波の発祥地でもあり、子どもにも関心をもちてもらえる」と話した。柳川会長は「こうした企業イベントには、行政主導の催しとは異なる層の集客が期待でき、活性化の起爆剤になる」と喜んでいた。



親子で作業用つなぎに着替え、整備体験をするコーナーは大人気

人とクルマの未来を感じて



神戸マツダ社長

橋本 覚氏に聞く

「初めて阪神・淡路エリアを離れた。2019年に「神戸マツダ祭り」として初回を開催し、様々な内容を充実してきました。しかし、伝統的な遠方のお客さまは参加しにくく、これはという声もあった。丹波市は兵庫県のほぼ中央に位置し、高速道路を使えばドライブがたやすく通勤から来ている。さらに、令和という新しい時代を迎え、私たちも進化、深化したいという思いがある。地方は多国籍化が深刻だが、企業としてこうした社会問題の解決に役立ちたい。イベントを通して少しでも地方活性化に貢献したい。18回目を迎えたファンフェスタへの思いは、

「8回目を迎えたファンフェスタへの思いは、今回は「地域と共に創る」新時代人・クルマ・自然との「ハーモニー」をテーマに掲げた。地域社会というものを伝えたいという思いを込めた。これまでの2万平方メートルに案内状を送っていただけだが、会場が広いところではすべての顧客に連絡をした。丹波市、丹波市観光協会など地元との協力も決め、地域色豊かな内容にできたと。丹波市は自然が豊かで、栗や黒豆など産物も豊富。地域の魅力を多くの人に知

「人・クルマ・自然のハーモニー」 MAZDA3と会場合致



「第7世代」第1弾「MAZDA3」

てもらえる機会にしたかった。自動車販売会社の主催だが、販売の場は設けていない。社会に貢献したいという意識を表現するイベントで、今回はこうした思いがもっとも深まった内容になったと思う。「マツダは「第7世代」の製品に力を入れている。新世代製品群の第1弾となるMAZDA(マツダ) 3」が今年発売された。「人間中心の開発哲学」に基づく乗り心地や燃費性能を高め、デザインも美しい。ボディが鏡のように仕上げられ、曇りがきらいな取りこぼし。ボディは、車体に映った木々の緑がともみられた。「人・クルマ・自然のハーモニー」そのもの

「マツダは「第7世代」の製品に力を入れている。新世代製品群の第1弾となるMAZDA(マツダ) 3」が今年発売された。「人間中心の開発哲学」に基づく乗り心地や燃費性能を高め、デザインも美しい。ボディが鏡のように仕上げられ、曇りがきらいな取りこぼし。ボディは、車体に映った木々の緑がともみられた。「人・クルマ・自然のハーモニー」そのもの

哲学

「マツダが考える人間中心の開発哲学」をテーマに講演したのは、同社商品本部の猿渡健一郎本部長。2014年までアクセラの開発責任者を務めた。

マツダ商品本部長 猿渡健一郎氏

マツダは今年、小型車「アクセラ」を全面改良し、車名をMAZDA(マツダ) 3に改称して発売した。同社は「第7世代」と位置づける商品群の第1弾。ファンフェスタでは、開発責任者の講演やトークショーがあり、開発経緯や同社製品の特徴などを詳しく解説した。

人生を豊かに輝かせる車



トークショーでは、マツダ3の開発者である別府耕太氏(右)と、マツダの商品本部長である猿渡健一郎氏(左)が、マツダの開発者としての思いを語り、マツダ3の魅力を説明する。

まず、同社は車づくりの基本的な考え方として「人生を豊かにし、輝かせる道」と位置づけていると説明。同社が「第7世代」を実現した生活を実現することを目指していることを強調した。このため、バランス感覚や疲労などの医学的研究に力を入れており、疲れたまま運転しやすいことを設計の段階から心がけているとした。

MAZDA3 開発者 別府 耕太氏



MAZDA3 開発者 別府 耕太氏

「マツダ3の開発者である別府耕太氏は「マツダ車で人生が豊かになると言われるように、これからも人間本位の車づくりを続ける」と話した。一方、トークショーではマツダ3の開発者である別府耕太氏と、マツダの商品本部長である猿渡健一郎氏が、マツダの開発者としての思いを語り、マツダ3の魅力を説明する。

子どもも大人もワクワク体験

「車に関わる仕事が、一歩近づけた」ファンフェスタにはカーライフだけでなく、子どもや地域住民にも楽しめる内容を盛り込んだ。親子整備体験のコーナーでは、家族と一緒にマツダの作業用つなぎに着替え、車

の高級に取り組み。小学生コースは、ボンネットを開けてオイルや冷却液などを点検。小学校5年生から中学生向けコースは、タイヤの取り付けなどを行った。車が大好きで将来は車に関わる仕事をしたいという姫路市の立瀬湖さん(10)は「貴重な体験ができました。夢に一歩近づいた気がします」と目を輝かせていた。

VRゲームでレースに挑戦する「グランツーリスモ体験」

このほか、大人向けの体験として、子どもも大人も楽しめる「グランツーリスモ体験」も用意された。VRゲームでレースに挑戦するコーナーは、子どもも大人も楽しめる。子どもは、大人と一緒に体験する。子どもは、大人と一緒に体験する。

コーナーも充実。「高齢者運転シミュレーション体験会」は、体に負担を減らして運転を楽しくするための体験。高齢者事故を防ぐ。同社のブレーキサポートシステムや、操作しやすいペダルなどの安全機能も確認した。マツダ車の営業コーナーでは、マツダ3のほかロードスターなどの人気車を用意し、ファンなどの行列を作った。整備が完了したら、30分かけて走り、さわやかな風を受けながら乗り心地を確認していた。



「MAZDA3」などの試乗体験



体に負担をかけない高齢者の運転を助けるための試乗体験



車の合った運転を盛り上げたDEP APLEのライブ

顧客モデルの生活を研究

別府耕太開発者兼マツダデザイン本部チーフデザイナーの土田康剛氏。2人は、開発コンセプトを固めるため世界中を巡り、顧客とミーティングを重ねた。結果、ドイツの男性と米国の女性の2人を顧客モデルに選び、ライフスタイルを研究した。日本のインテリアや、車のデザインなど暮らしの中で目を惹いている点から、参考にしたという。土田氏は「一体感に満ちた風景が映り込む美しさを楽しんでほしい」と強調。別府氏は「むくむくして乗ってもらえるクルマになった」と話した。

世界巡りコンセプト構築



デザイン本部 チーフデザイナー 土田 康剛氏

開発裏話

「マツダ3の開発者である別府耕太氏は「マツダ車で人生が豊かになると言われるように、これからも人間本位の車づくりを続ける」と話した。一方、トークショーではマツダ3の開発者である別府耕太氏と、マツダの商品本部長である猿渡健一郎氏が、マツダの開発者としての思いを語り、マツダ3の魅力を説明する。